

Boston Biomedical Inc.買収合意について

大日本住友製薬株式会社

2012年2月29日

がん事業における戦略と買収の意義

がん領域へのコミットメント

がん領域に対してグローバルに参入し、長期的に取り組む

外部機会

市場魅力度

- ① 高いアンメットメディカルニーズ／革新性の追求が必須
- ② 薬剤の役割は飛躍的に拡大
 - ・ 癌は慢性疾患化、「癌は治らぬ時代」から「治る時代」へ
- ③ ラショナルアプローチによる研究開発が可能な状況
- ④ 長期に持続するビジネス、中長期的に成長が見込める市場
 - ・ 生存期間延長に伴い、耐性、再発、転移などの新たなアンメットニーズが顕在化

内部環境の
変化

- ⑤ 米国市場にアクセス可能となった
- ⑥ ラツータ上市、次の一手へ
- ⑦ パイプライン補完 必須

経営理念との
適合性

- ⑧ がん治療薬への挑戦は研究開発型製薬会社の使命

経営戦略
との
適合性

- ⑨ 規模の原理に依存せず、中規模企業でも成功できる領域
 - ・ 競争激化の領域であるが、最も「Product-driven」の領域である
 - ・ 個別化医療の台頭により、市場がセグメント化
- ⑩ 典型的なスペシャリティー領域
 - ・ 小さな営業組織でグローバル展開が可能

がん領域への取組み

日本

研究基盤(自社・提携・導入)

- 研究のチャレンジ領域に設定
- 低分子に加え、タンパク、ペプチド、抗体、核酸といったバイオ医薬からのアプローチ

- 京都大学との協働研究(DSKプロジェクト)を推進
- BBI社から、「BBI608」導入のオプション契約締結

開発・販売基盤

中国

開発基盤

グローバル
研究開発体制

オンコロジー事業
推進室

グローバルな戦略の立案・推進

米国

- がんのグローバル研究開発組織を構築へ
- 販売体制の構築へ

2011年6月24日、がん領域参入のリーダーシップをとる組織として、オンコロジー事業推進室設立(Global Oncology Business Development Office)

本買収の意義

グローバルがん事業への本格参入

- **革新性の高い開発パイプライン(BBI608、BBI503)の獲得**
 - **ポスト・ラツェダ候補**
 - **2015年以降の成長ドライバーとして期待**
- **コア人材、専門性、ネットワークの獲得**
- **優れた創薬プラットフォームの獲得**
- **獲得した会社を基にして、DSPグループのがん領域におけるグローバルな研究開発体制の構築が可能となる**

BBI社の概要及び買収メリット

Boston Biomedical Inc.の概要



会社概要

| | |
|------------|---|
| 概要 | ボストン近郊の、がん幹細胞領域に特化したバイオベンチャー製薬企業 |
| 代表者 | Chiang Li, M.D, FACP |
| 設立 | 2006年11月 |
| 所在地 | 333 Providence Highway, Norwood, MA 02062 |
| 従業員 | 30名 |



経営メンバー

| Name | Position |
|-----------------------|--|
| Chiang J. Li, MD FACP | Chief Executive Officer & Chief Medical Officer |
| Joel Marcus | CEO, Alexandria Equities |
| Taro Inaba | General Manager, Healthcare and Cleantech Investment, Mitsui&Co. |
| William J. Rutter | Chairman of Synergenics, Founder and former chairman of Chiron |

Boston Biomedical Inc.の魅力

BBI社が保有する魅力的な要素

理念・文化

- イノベーションを重要視
- イノベーションに必要な強い企業家精神

人材

- 臨床入りさせた多くの経験を有する
- 研究のシーズやアイデアを有する
- 少数精鋭(30名)
- ネットワーク

研究開発力 パイプライン

- がん幹細胞に特化した研究開発と有力なパイプライン
BBI608(P3準備中), BBI503(P1実施中)

研究開発拠点の ロケーション

- がんのベンチャー・製薬企業や研究機関が集中しているボストン地区における研究開発拠点

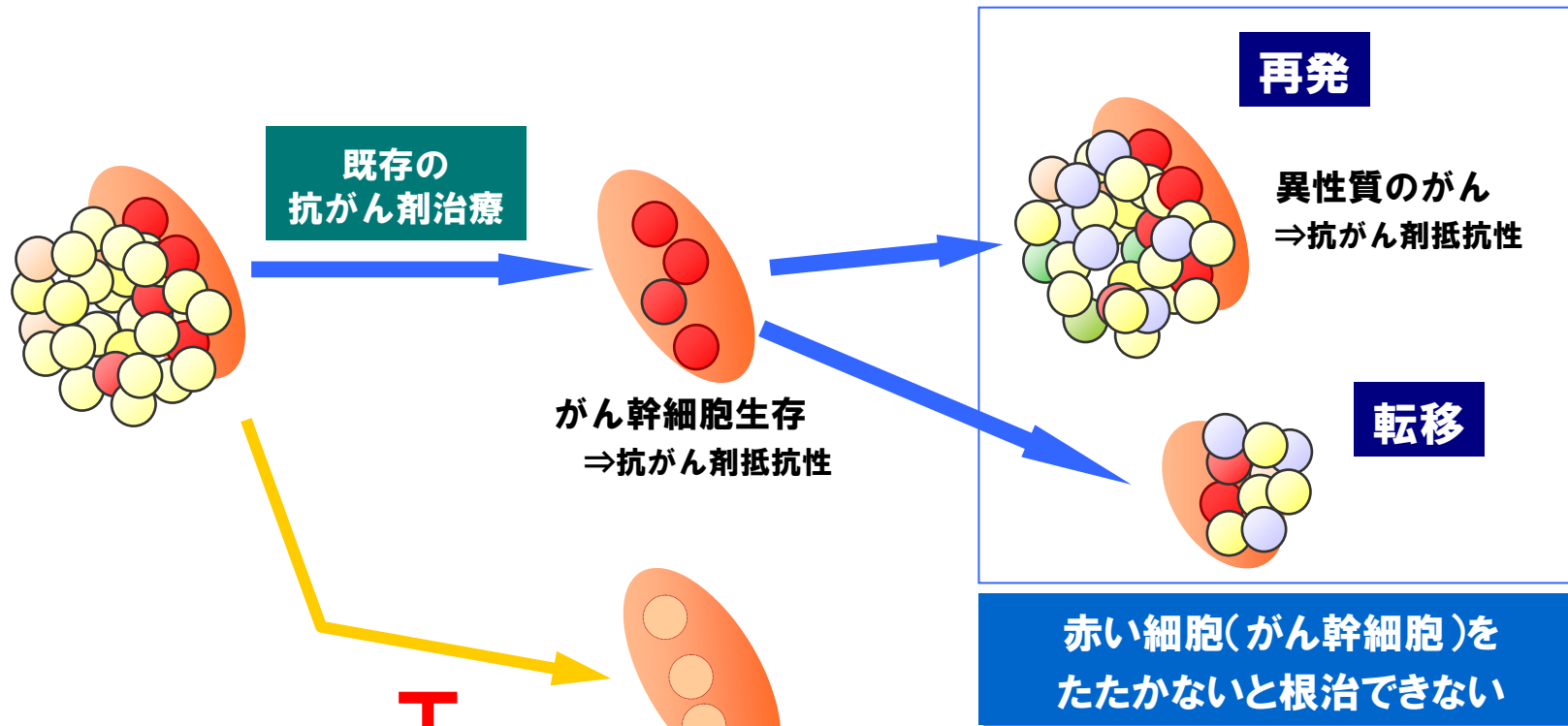
BBI608、BBI503の特徴

| | |
|---------------|---|
| BBI608 | <ul style="list-style-type: none"> ● First-in classの分子標的薬(低分子化合物, 経口投与) ● がん幹細胞およびがん細胞に対して細胞増殖抑制・細胞死を誘導する ● 化学療法剤などとの併用により高い有効性を示し、高い安全性も確認済み |
| BBI503 | <ul style="list-style-type: none"> ● First-in classの分子標的薬(低分子化合物, 経口投与) ● BBI608とは異なる作用メカニズムで作用する ● がん幹細胞およびがん細胞に対して細胞増殖抑制・細胞死を誘導する ● 化学療法剤などとの併用による高い有効性と、高い安全性を期待する薬剤 |

開発スケジュール



BBI608、BBI503の作用メカニズム概要



BBI608, BBI503

がん幹細胞を標的とした薬

化学療法剤との併用などで、

- 劇的な効果（根治）を期待
- 耐性・再発・転移に対する効果期待

買収の概要及び財務インパクト

本取引の概要

● 形態：

- BBI社の全株式の取得

● 対価：

- 一時金 ： 200百万米ドル
- 開発マイルストーン ： 最大540百万米ドル
 - ピポタル試験の開始時、申請時、承認時
- 販売マイルストーン ： 最大1,890百万米ドル
 - 北米・日本における年間売上高に応じて支払う
 - 年間売上高が4,000百万米ドルに達した場合には、販売マイルストーンが総額1,890百万米ドルとなる

● クロージング(予定)

- 2012年4月

財務インパクト

● 会計処理：

■ 一時金

- ➔ 一時金支払額と付随費用の合計額と、取得した資産及び引受けた負債に配分された純額との差額を「のれん」として計上

■ 開発・販売マイルストーン

- ➔ 支払時に「のれん」として計上し、企業結合日に遡及して償却を実施

■ 「のれん償却」の期間

- ➔ 20年間にわたる均等償却を予定

● 損益への影響：

- のれん償却、インプロセスR&Dに関する無形資産等についての詳細は確定次第公表

● 買収資金

- 自己資金

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。